

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
司	シつかさ つかさどる								王勃詩序
史	シさかん ふびと ふみ								王勃詩序
叱	シツカ シチ しかる								瑠玉集
召	ショウ めす まねく								聖武天皇雜集
									瑠玉集
台	タイ ダイ うてな								最澄
臺									聖武天皇雜集
臺									聖賢指歸

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
司											司 現代中国
史											史 現代中国
叱											叱 現代中国
召											召 現代中国
台											台 現代中国
臺											臺 現代中国
臺											臺 現代中国

【司】金文の異体字は、説文には「辭」の籀文として載っており、康熙字典には「司」の古文として載っている。

【召】干祿字書に〈正〉が2種ある。

【台】「台」と「臺・臺」とは元々は別字。漱石は「基所」、「屋基」、「舞臺」など一貫して「臺」を用いる。文部省活字に

「台」が無いにもかかわらず、太宰は「屋台」など「台」を用いている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
只	シ ただ 人①								鄭警指歸
叩	コウ たたき たたく ①								孔穎達碑 干祿字書 瑞玉集
吋	インチ ①								
各	カク おのおの 教4常①								王羲之誌 貞隱子墓誌 五経・序 杜家立成
吉	キツ キツ よい 常①								馬王堆 西嶽華山廟碑 十七帖 敬史君碑 孟法師碑 江戸五経 聖武天皇雜集
吉									
吃	キツ どもる ①								
吸	キョウ すう 教6常①								鄭警指歸

【叩】説文にない。篆書は「叩」で代用する。
【各】古代は「𠄎」や「𠄎」が加わった字体もあったようだ。
【吉】「吉」いわゆる「さむらいよし」と、「吉」いわゆる「つちよし」問題。古代はどちらも良いらしい。説文篆文がたまたま「吉」だったために「吉」が正字になった。漢代の隸書

以降は「吉」が圧倒的に多い。五経文字は説文篆文にならな
って「吉」だが親字としての掲載はなく、他の字の説明中にある。日本でも「吉」が圧倒的。江戸時代は使用例が少ないが「吉」も現れる。弘道軒には「吉」「吉」の両方がある。漱石は「吉」「吉」の両方を使っている。太宰は「吉」しか使って

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

おらず、正字や明朝活字の影響を見てとれる。
【吸】康熙字典では「口」部の4画。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
叫	キョウ さげぶ 常①		𠂔				𠂔𠂔𠂔𠂔	𠂔𠂔𠂔𠂔	鄭魯指歸
							𠂔𠂔	𠂔𠂔	
向	コウ むかう むける むにう まきに むき 教3常①	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	王勃詩序
				𠂔 𠂔	𠂔				
后	コウ きさき きみ 教6常①	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	法隆寺光背記
				𠂔 𠂔	𠂔 𠂔				
合	ゴウ カフ あう あわす あわせる 教2常①	𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	王勃詩序
				𠂔					
吊	チョウ つり つる つるす ①	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	璚玉集
弔	チョウ とむらう つる 常①	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔			𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	璚玉集
							𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	
吐	ト はく 常①		𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔			𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	王勃詩序
							𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	王勃詩序
							𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	陳福寺碑 等慈寺碑

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	叫 現代中国
𠂔											
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	向 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	后 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	合 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	吊 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	吊 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	吐 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	吐 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	吐 現代中国

【叫】手書きでは旁を「リ」に作ることが多い。康熙字典では「口」部の2画にある。現代中国も旁は2画。当用漢字字体表では3画。
【向】上部は「𠂔」になるはずの字だったようである。
【后】『陸軍幼年学校用字便覧』は「後」の許容字体として掲

載され、「實ハ別字」と説明がある。
【吊】干祿字書、康熙字典ともに「吊」は「弔」の俗字としている。『陸軍幼年学校用字便覧』は「實ハ別字」としている。字体の変遷をみるかぎり、「吊」と「弔」は異体字と見て良いだろう。では「吊(つる)」と「弔(とむらう)」という意味は

いつ分かれたのか。江戸期は「弔」を「つる」、「とむらひ」と「吊」を「とむらひ」、「とむらひ」と読むなど意味は分かれていない。『陸軍幼年学校用字便覧』(大正3年編纂、昭和13年改訂)では「吊」を「弔」の許容字体として扱っているから、まだ意味は分かれていないと見るべきだろう。太宰は

「吊」と「弔」を明確に使い分けている。とすると「吊」と「弔」の意味が分かれたのは、昭和13年から23年の間ということだろうか。現代中国では「吊」と「弔」は「吊」に統合されているようだ。間に草書を介すると「弔」から「吊」ができた過程が理解できる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
同	ドウ おなじ								
名	メイ ミョウ な								
吏	リ								
含	ガン ふくむ くめる								
吟	ギン								

【名】曹全碑の「夕」は一画多い。

【吟】説文篆文に旁が「金」の或体がある。「今」と「金」の音が似ているからだろうか。また偏が「音」に従う字と、「言」に従う字がある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												同 現代中国
												名 現代中国
												吏 現代中国
												含 千禄<通> 現代中国
												吟 現代中国

【口】君 吳 吾

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文篆字 篆家	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
君	クン きみ 教3常①								
									
									
									
									
吳	ゴ くれ くれる 常①								
									
									
									
									
									
									
吾	ゴ われ 人①								
									
									

【吾】石鼓文の字体は特異。「十七帖」と「争乱帖」では草書の崩し方が異なる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
君	君	君	君	君			君	君	君	君		君 現代中国
		君										
		君										
吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳	吳		吳		吳 現代中国
		吳										
		吳										
吾	吾	吾	吾	吾			吾		吾	吾		吾 現代中国
		吾										

*当用漢字字体表の下のお×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。